

教育・保育事業(P54からP57)

資料 2

単位：人

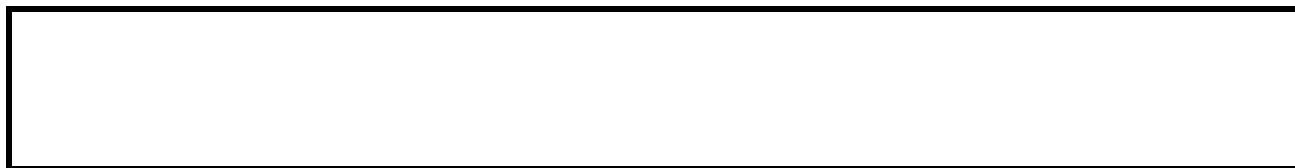
平成27年度		1号	2号	3号	
		5歳児から3歳児	5歳児から3歳児	1、2歳児	0歳児
児童数(3月末時点)		570		340	174
0から2歳児の保育利用率目標				66.6%	26.6%
施設 幼・保 利用者	特定教育・保育施設利用者	1	410	151	29
	私学助成の幼稚園利用者	148			
	特定地域型保育利用者			0	0
	合計	559		151	29
提供量		487		221	38
利用率(合計÷提供量)		114.8%		68.3%	76.3%

0歳児の保育については、26.6%の目標に対して16.7%となりました。
 1・2歳児の保育については、66.6%の目標に対して44.4%となりました。
 5歳児から3歳児の教育・保育の合計が98.1%、保育のみであれば71.9%となります。

平成28年度		1号	2号	3号	
		5歳児から3歳児	5歳児から3歳児	1、2歳児	0歳児
児童数(3月末時点)					
0から2歳児の保育利用率目標				66.7%	26.4%
施設 幼・保 利用者	特定教育・保育施設利用者				
	私学助成の幼稚園利用者				
	特定地域型保育利用者				
	合計	0		0	0
提供量		479		214	37
利用率(合計÷提供量)		0.0%		0.0%	0.0%

平成29年度		1号	2号	3号	
		5歳児から3歳児	5歳児から3歳児	1、2歳児	0歳児
児童数(3月末時点)					
0から2歳児の保育利用率目標				66.6%	26.1%
施設 幼・保 利用者	特定教育・保育施設利用者				
	私学助成の幼稚園利用者				
	特定地域型保育利用者				
	合計	0		0	0
提供量		464		209	36
利用率(合計÷提供量)		0.0%		0.0%	0.0%

平成30年度		1号	2号	3号	
		5歳児から3歳児	5歳児から3歳児	1、2歳児	0歳児
児童数(3月末時点)					
0から2歳児の保育利用率目標				66.6%	26.1%
施設利用者 幼・保等	特定教育・保育施設利用者				
	私学助成の幼稚園利用者				
	特定地域型保育利用者				
	合計	0		0	0
提供量		453		205	35
利用率(合計÷提供量)		0.0%		0.0%	0.0%



平成31年度		1号	2号	3号	
		5歳児から3歳児	5歳児から3歳児	1、2歳児	0歳児
児童数(3月末時点)					
0から2歳児の保育利用率目標				66.6%	26.2%
施設利用者 幼・保等	特定教育・保育施設利用者				
	私学助成の幼稚園利用者				
	特定地域型保育利用者				
	合計	0		0	0
提供量		438		201	34
利用率(合計÷提供量)		0.0%		0.0%	0.0%



地域子育て支援拠点事業(P58)

単位： 人[延べ利用/年]

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
提供量	1,072	1,040	1,020	997	975
延べ利用実績	5,829				
評価	◎				

(評価欄記載項目)

- ・提供量に対し、 ◎ 満足のいく利用実績であった
- 概ね満足のいく利用実績であった
- △ 不満である

・評価と課題

各地区で開催している乳幼児教室の参加実績が高いが、各乳幼児教室のスタッフの確保が将来心配である。(げんきはうす)
 資質とサービス向上によって市内の利用者が増えたことでニーズに応えることができた。

利用者支援事業(P58)

単位： 箇所

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
提供量	-	-	-	-	-
開設事業	1				

実施状況

おやこYYひろばにて開設。利用者支援の相談を受けると共に地域の子育て支援団体とのネットワークづくり、子育て支援事業の現状についての協議を進めることができた。

乳児家庭全戸訪問事業(P59)

単位： 人[実人数]

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
対象者	133	153	151	149	147
延べ実績	132				
評価	◎				

(評価欄記載項目)

- ・提供量に対し、 ◎ 満足のいく利用実績であった
- 概ね満足のいく利用実績であった
- △ 不満である

・評価内容と課題

対象者133名に対し、132名の訪問を行いました。1名については里帰りの時期を考慮して、次年度の実施のため、全て対応できました。今後も確実に対応することで、乳児の健全な成長発達の確認と、子育てをする母親の支援をしていきます。

養育支援訪問事業(P60)

単位： 人[実人数]

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
対象者	14	10	10	10	10
延べ実績	14				
評価	◎				

(評価欄記載項目)

- ・提供量に対し、 ◎ 満足のいく利用実績であった
- 概ね満足のいく利用実績であった
- △ 不満である

・評価内容

養育支援が必要な対象者に対し、随時訪問を行い、支援することができました。年々、支援を必要とする母子が徐々にですが増えており、妊娠期からの継続した支援を行うことができるような取り組みが必要となってきています。平成28年度より、妊娠届書の情報をもとに、支援の必要の有無について妊娠期から判断をし、地区担当保健師が対応していきます。

子育て短期支援事業(P61)

単位： 人[延べ利用/年]

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
提供量	18	18	18	18	18
延べ利用実績	0				
評価	-				

(評価欄記載項目)

- ・提供量に対し、
 - ◎ 満足のいく利用実績であった
 - 概ね満足のいく利用実績であった
 - △ 不満である

・評価内容と課題

利用者がなかった。

一時預かり事業、ファミリー・サポート・センター事業(P62)

単位： 人[延べ利用/年]

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
市町村実施事業提供量	4,080	4,005	3,885	3,782	3,679
市町村以外実施事業提供量	37	36	35	34	33
延べ利用実績	147				
評価	-				

(評価欄記載項目)

- ・提供量に対し、
 - ◎ 満足のいく利用実績であった
 - 概ね満足のいく利用実績であった
 - △ 不満である

・評価内容と課題

・保育園による一時預かりは延べ526人。ファミリー・サポート・センター事業とあわせると673人(市町村実施分)と実施提供量を大きく下回る人数となりました。
 ・平成27年度においての実績は、延べ147人(昨年97人)、実以来人数7人(昨年4人)と、少し増えましたが、サポート会員の確保が課題。(現在25人) ※ げんきはうす分

延長保育事業(P63)

単位： 人[実人数]

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
提供量	168	164	160	156	152
延べ利用実績	172				
評価	◎				

(評価欄記載項目)

- ・提供量に対し、 ◎ 満足のいく利用実績であった
- 概ね満足のいく利用実績であった
- △ 不満である

・評価内容と課題

利用実績が提供量を上回るニーズがありました。

病児・病後児保育事業(P64)

単位： 人[延べ利用/年]

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
提供量	256	251	244	238	232
延べ利用実績	164				
評価	○				

(評価欄記載項目)

- ・提供量に対し、 ◎ 満足のいく利用実績であった
- 概ね満足のいく利用実績であった
- △ 不満である

・評価内容と課題

市外の機関で病児保育を受けました。
平成28年度から市内でも開設され充実します。

放課後児童クラブ(P65)

単位： 人[実人数]

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
提供量	167	158	152	140	133
延べ利用実績	207				
評価	◎				

(評価欄記載項目)

- ・提供量に対し、 ◎ 満足のいく利用実績であった
- 概ね満足のいく利用実績であった
- △ 不満である

・評価内容と課題

利用人数としての実績はあるもの、クラブによっては長期期間利用のみの児童数が増えるため、専用区画の面積を確保できない所や、体調の悪いときなどに静養する場所を確保

母子手帳の交付(P66)

実施状況

妊娠届出書(県下統一)の提出により、母子手帳の交付を行います。届出書の問診内容の確認し、妊娠の状況や不安などにも助言するようにしています。交付場所は、利用者の利便性を考慮し、ふれあいセンターや各支所・出張所での交付を行っていました。そのため、全数を保健師・栄養士などの専門職種による対応ができていませんでした。近年では、生活背景の多様化などにより、妊娠期から何かしらの不安や心配を抱えながら生活している妊婦が多くなっています。平成28年度からは、本庁のみの交付にすることで、全数に対し専門職が対応し、妊娠期からの継続した支援体制を整えていきます。

妊婦健康診査(P66)

単位：回

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
利用量	1,964	1,940	1,916	1,892	1,868
延べ利用実績	1,718				
評価	◎				

(評価欄記載項目)

- ・利用量に対し、 ◎ 満足のいく利用実績であった
- 概ね満足のいく利用実績であった
- △ 不満である

・評価と課題

妊娠届けのあった妊婦に対し、合計14回(基本健診・超音波検査・子宮がん検診等)の健診補助を行いました。今後も継続して実施していきます。速やかに確実に利用できるよう周知をさらに行っていきます。

妊婦歯科健診・マタニティクラス(P67)

実施状況

妊娠中の口腔内を健康に保つためと、出産後の育児に対する情報提供も合わせ、出産までに1回、妊婦歯科健診・歯科保健教育を行う事業です。また、妊婦どうしの交流と木育についてのお話(妊婦のリラックス効果と育児の中での活用のための情報提供)を合わせて行っています。口腔を身体全身の一部として捉え、健康意識を高める機会になっていますが参加者数は伸び悩んでいます。

乳幼児健診(P67)

単位： %

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目標受診率	100	100	100	100	100
実績の受診率	98.6				
評価	○				

(評価欄記載項目)

- ・受診率に対し、 ○ 達成できた
- 概ね達成できた
- × 達成できなかった

・評価と課題

3-4か月児健診、10-11か月児健診、1歳6か月児健診、3歳児健診の4つの健診を実施しました。健診によって受診率の差は多少ありますが、ほとんどの乳幼児が受診し、健康状態の確認、育児状況への助言や情報提供を受けることができるようになっていきました。また、未受診の乳幼児にも必ず面接等を行い、全ての子どもたちの状態の把握に努めました。今後も引き続き行っていきます。

乳幼児教室(P68)

実施状況

6-7か月児健康教室とあそびの教室を実施しました。

- ・6-7か月児健康教室の参加者は7-8割と多く、乳児健診からの発育フォロー児についても確実に対応しました。この教室後の乳幼児健診で言葉や精神的発達が全体的に遅れ気味であることや親子のかかわり方がわからない保護者が多いことなどが課題としてあがり、平成28年度から教室で発達の経過や望ましい関わり方などについての講話を行うことにしました。
- ・あそびの教室については、参加が必要だと考えられる児が増えており、参加者の低年齢化や人数の増加が課題となっています。平成28年度については、より良い教室となるよう教室の実施内容・方法の見直しを検討していきます。

要支援児及び保育者への支援(P68)

実施状況

- ・妊娠期から小学校入学までを中心に、支援が必要と思われる児と保育者への訪問や相談を実施しました。保健師・栄養士とも地区担当制とし、随時対応できるような体制をとっています。
- ・支援が必要な児が低年齢化していること、問題が複雑化していることなどからも妊娠期から要支援者の判別や支援が重要となっており、平成28年度から妊娠届出書・母子手帳交付時の面接等の充実をはかります。

思春期保健(P69)

実施状況

・現在、10代の出産や低出生体重児の出産、保育環境(離婚、虐待、育児不安、親中心の子育て)などが子育てを取り巻く環境として課題となっています。
・携帯電話やインターネット等が普及している現在、青少年のコミュニティ範囲や行動範囲は拡大しており、性感染症や性犯罪へと安易に巻き込まれる可能性も高くなっています。心身ともに健全な青少年を育成するために、各学校や施設において性教育を実施しています。

実費徴収に係る補足給付を行う事業(P69)

実施状況

平成27年度においては未実施。

多様な主体が新制度に参入することを促進するための事業(P69)

実施状況

平成27年度においては、未実施。